

# 茨城空港で航空機事故訓練 城西病院のDMATチームが初めて参加



自衛隊百里基地（茨城空港）で9月6日、旅客機が着陸に失敗、炎上して100人の死傷者が出たとの想定で訓練が行われました。

れると死亡を宣告され、負傷者1人1人も傷病個所や重症度が異なるという課題が課せられました。



旅客機炎上を想定、負傷者百人

城西病院から、今年3月に認定を受けたDMATチーム4人が初めて参加、真剣に訓練を受けていました。

この訓練は、国交省百里空港事務所主催で、空港、警察、消防、自衛隊、茨城県、医療関係者約150人が参加する大規模訓練で、県内のDMATは6チームが参加しました。

訓練は、紙に描いた人形を負傷者に見立て、救助から治療の優先度を決めるトリアージ、応急処置、ドクターヘリや救急車両で病院への搬送などを行うもので、現場の到着時刻や患者の治療時間、搬送時間、患者1人に対して



して何人がかかわればいいのかなど、実際の災害と照らし合わせて、リアルに時間進行を行っていく訓練。負傷者に対する応急処置などが遅

事故発生から1時間後に城西病院DMATが現場に到着。空港管理者や現場指揮所に連絡し、現場救護所での治療や病院へ搬送するためのトリアージなどを真剣な表情で行っていました。訓練では、関係機関との密な連携が求められ、災害現場での行動を身をもって学んでいました。

平成29年9月7日

